

# 指導資料

 鹿児島県総合教育センター

## 外国語（英語）第76号

— 高等学校，特別支援学校対象 —

平成26年10月発行

### 「英語表現 I」における コミュニケーションを意識した指導の工夫

平成25年度入学生から適用された新学習指導要領において、「英語表現」科目が設けられた。この科目では「話すこと」と「書くこと」の二つの技能において「論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力」の育成が求められている。言語材料や練習問題のみを重視し、言語の働きや使用場面を考慮せず、文法・語法の確認、和文英訳に終始するような指導では、これらの能力の育成は望めない。

そこで、本稿では、「英語表現 I」における目標と内容を整理し、生徒が自分の考えを「伝え合う」ようなコミュニケーション活動につながる指導の工夫について、具体例を挙げながら述べる。

#### 1 「英語表現 I」の目標と内容

##### (1) 目標

「英語表現 I」における目標は、英語を通じて、①積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成することと、②事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養うこと

である。②の中には「論理的思考力」と「批判的思考力」の育成も含まれている。文法事項等を体系的に学ぶことが目標ではなく、生徒の話したり書いたりする活動を通して、「英語で発信する能力」を育成することが目標であることに留意する必要がある。

##### (2) 内容

「英語表現 I」においては、生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることができるよう、具体的な言語の使用場面を設定し、次のような言語活動を英語で行う。

- ・ 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。
- ・ 読み手や目的に応じて簡潔に書く。
- ・ 聞いたり読んだりしたことと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。

これらの言語活動を行うに当たっては、単元ごとに、具体的にどのような目標や活動を設定するのが大切である。

## 2 言語活動の設定と言語材料の精選

### (1) 単元終末における言語活動の設定

「英語表現Ⅰ」における「英語で発信する能力を育成する」という目標を達成するには、単元で扱われている文法事項や言語材料を用いて「伝え合う活動」を設定する必要がある。「教科書を教える」視点にのみ立ってはいは、ただ単に言語材料を教え、練習問題を解かせて指導が終了してしまうことになりかねない。

「教科書で教える」という視点に立ち、単元終末に「生徒にどのような言語活動をさせるのか」という単元指導計画を明確にもち、生徒に示すことが大事である。なお、教科書によっては単元終末に行う言語活動例が具体的に示されているので、効果的に利用したい。

### (2) 言語材料の精選

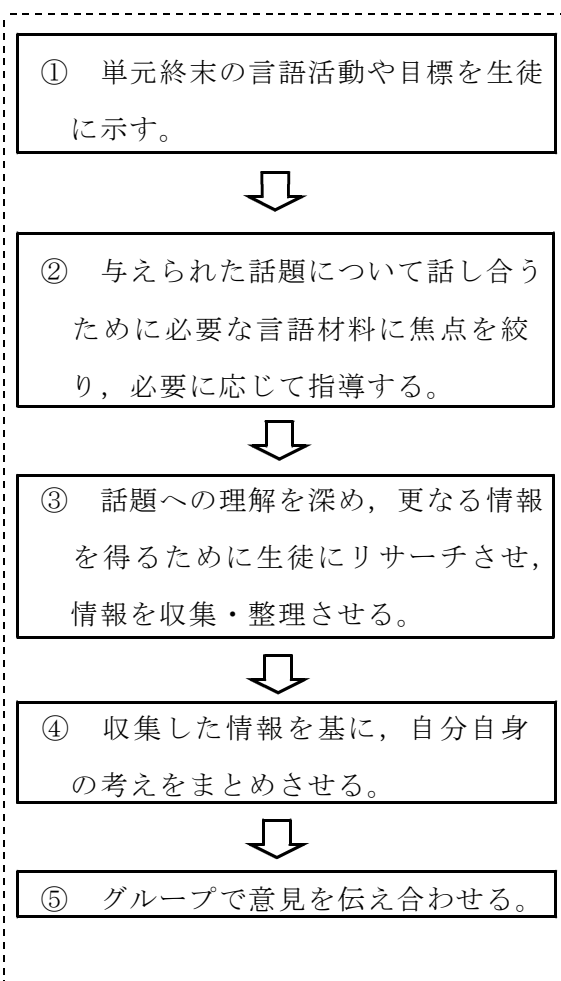
言語活動充実のためには、教科書単元の全ての言語材料や練習問題を扱うのではなく、単元終末における言語活動を行う上で必要な言語材料に焦点化して指導するなど、言語材料を精選する視点をもつことが大切である。与えられた課題の解決に向け、生徒が情報を収集したり、その収集した情報を基に論理の展開や表現を工夫したりする活動を確保するためには、言語材料の指導や練習問題のみに多くの時間を費やさぬようにする配慮が求められる。

## 3 指導の際のポイント

これまで述べてきたとおり、指導の際に

は教科書をいかに使うかが大切になる。例えば、単元の前半に文法事項等の言語材料が示され、その理解を定着させるための問題が続き、最後に単元のテーマについて話し合う活動が教科書に示されていたと仮定する。科目の目標から考えれば、単元の終末段階において「伝え合う活動」ができるように指導することがポイントとなる。つまり、あらかじめコミュニケーション活動につながる単元指導計画を構築することが重要である。そこで、次のような指導過程や教科書の取扱いが考えられる。

### 【単元指導計画例】



上記の指導過程を念頭に、単元の終末段階における言語活動を見据えて単元指導計画を立てることが大切である。

#### 4 コミュニケーションを意識した指導例

ここでは、「読み手や目的に応じて簡潔に書く」活動例を示す。

##### (1) 目標と単元指導計画

###### ア 教材例

「音楽」をテーマにしたレッスン

###### イ 目標

好きな歌手の紹介文を書こう

###### ウ 言語材料など

- ・ 助動詞 (may や must)
- ・ make (人) (形容詞)
- ・ 比較を表す表現 (compared to や prefer A to B など)

###### エ 単元指導計画

	主な活動計画	配当時間
1	英文の目的や言語の働きを理解し、それに応じた英語表現を学ぶ(練習問題等を通して)。	1時間
2	読み手を意識しながら、目的や言語の働きに応じた英文を書く。	1時間(本時)
3	他者の書いた英文を読んで感想を述べる(書く)。	1時間

##### (2) 活動内容(単元指導計画の2時間目)

###### ア ねらい

1時間目に学習した英文の目的、言語の働き、英語表現を利用して、読み手にその歌手の魅力が伝わるように紹介文を書く。

※ 波線部の文言を付け加えることで、生徒が英文の展開や表現方法を工夫する視点をもつことが期待できる。

###### イ 手順(例)

教師: Today, I want you to talk about your favorite singer or group. Please tell your partner about your favorite singer or group in English. OK? Then, shall we begin?

SA: My favorite group is the Beatles.  
 SB: Oh, is it? Tell me more about the Beatles.  
 SA: OK. Compared to other bands, many of their songs are smooth and relaxing.  
 SB: I didn't know that. Their songs seem so good. I'll try to listen to some of their songs.  
 SA: Who do you like?  
 SB: I like AKB48. Their songs make me cheerful!



生徒同士によるコミュニケーション活動が生まれる。書く活動の前に即興で英語を話す場面も設定できる。

教師: Now, you are going to write about your favorite singer in about 70 words. Please remember who you are writing to, the purpose of the writing and expressions you have learned in the last lesson.

＜ワークシートの例＞

Class	No.	Name
読 み 手：クラスメート		
英文の目的：好きな歌手の紹介 言語の働き：①情報を伝える ②気持ちを伝える		
使用する表現： let me explain ..., compared to ～, may (must) make 人 (形容詞)		
<p>Let me explain my favorite singer group. I love the Beatles. Their songs are very clear and impressive.</p> <p>I often listen to their songs. Compared to other bands, their songs are smooth. My favorite is "Let It Be." It makes me relaxed. I have never heard such a good song.</p> <p>I want many people to listen to their songs. You must agree that their songs are wonderful if you hear one of their songs.</p>		

教師：OK. Time is up. Now exchange your worksheet with your partner. Then, read it carefully and tell your partner how you think about it. Ready? Go.

(3) 活動の留意点

生徒がすぐに英語による紹介文が書けないときは、例文を示してから書かせるとうい。使用する英語表現についての理解と練習は前時に十分に行う。また、コミュニケーション活動の場が生まれるよう、書く活動の前に“small talk”の場を設定するなどの工夫が必要である。

5 評価に関する留意点

「英語表現 I」は、「話すこと」及び「書くこと」の技能を中心に扱う科目であることから、評価についても二つの技能に対して行うこととなる。評価の際は、ペーパーテストのみでの評価にならないように留意する必要がある。また、この二つの技能は、実際に生徒が話したり書いたりする場がなければ評価は不可能である。日頃から、授業での「話すこと」に関する生徒の取組状況から評価したり、スピーキングテストなどを取り入れたりすることも有効である。また、「書くこと」については、30分間の一斉ライティングで評価を積み上げていくことも有効である。いずれの技能についても、「継続的な指導を心掛けること」と「パフォーマンステストを取り入れること」が肝要である。

指導と評価は一体的なものである。「英語表現 I」の目標と内容を鑑み、生徒が話したり書いたりすることによって自己表現をする機会を確実に設定し、「話すこと」と「書くこと」の二技能に焦点を当てた指導を心掛けるとともに、これらの技能の適切な評価に努め、生徒のコミュニケーション能力を育成していきたいものである。

－参考文献－

- 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』平成22年5月、開隆堂
- 岡部幸枝・松本茂編著『高等学校 新学習指導要領の展開 外国語科英語編』平成22年4月、明治図書
- (財)英語教育協議会 英語教員のためのポータルサイト

(教科教育研修課)